

令和5年7月22日

全校朝会でのお話

## 「いただきます」「ごちそうさま」の中にある「ありがとう」

令和5年度、新しく着任された先生方をお迎えし、始業式、入学式、そして150周年記念スポーツDAY、6年生の修学旅行、ドローンでの撮影、そして、今日で前期前半が終わり、明日から夏休みになります。長いお休みです。みなさんが健康で元気に過ごしてくれることを、先生方とみんなで願っています。



さて、明日からの夏休み。いろんな勉強や活動など計画があると思いますが、みなさんに考えてほしいことがあります。それは、食事のときに言う「いただきます」「ごちそうさま」です。

私たちは、食事を当たり前にしてはいますが、その「ありがとう」を思い起こしてほしいのです。「ありがたい」という言葉は、漢字では「有り難い」と書きます。「そうあることが難しい」「めったにないこと」という意味であり、だからこそ、感謝せずにいられないという気持ちが込められています。

毎日の食事について考えてみると、さまざまな「ありがたいこと」があることに気付かされます。例えば給食を考えてみましょう。材料を育ててくれた農家の皆さんの努力、魚を捕ってくれた漁師の皆さんの努力、それを運んでくれた皆さんの努力、調理してくれた調理室の皆さんの努力、電気やガスを支えてくれた皆さんの努力、盛り付けてくれた給食当番や先生、給食費を出してくれたお家の皆さん、これが全て揃ってはじめて、あなたの目の前に給食が揃うのです。その一つでもかけてしまうと給食は提供できないのです。

お家での食事と同じことです。いろんな方々の努力であなたの食事は提供されます。例え、お店から買って来たものでも、それは全く同じです。一つでも何かが欠けると食事は提供されないのです。特に皆さんのお家の方が出してくれたお金は、家族のために一生懸命に働いて得た大切なお金です。それを皆さんの食事のために使ってくれています。

**皆さんに「当たり前の日常の中にあるありがとう」に気づき、感謝する心を大切にしてほしいのです。**食事を目の前にしたとき、多くの人たちの努力、食材になった野菜や魚、動物、全てに感謝を込めて「いただきます」食べ終わったら「ごちそうさま」を口に出しましょう。声を出せないようなときは、心の中で「いただきます」

「ごちそうさま」を忘れないでください。

私たちの食生活は、時代によって変わっていく部分もありますが、こうした「感謝の心」はずっと受け継ぎたいものだと思います。

どうか夏休みの間も、そしていつでも「いただきます」「ごちそうさま」を忘れずにいましょう。食事は「ありがたいこと」です。何か一つでも欠けると口にできないかもしれない「ありがたいこと」なのです。

